

2020 年（令和 2 年）7 月 6 日（月）掲載



生涯スポーツ編 ⑮



ふじい・まさし 83年 秋田市生まれ。秋田大学医学部卒、同大学院

競技人生を左右すること
も少なくありません。こ
のため休日や夜間に検査
や治療に来てもらうこと
もあります。時にはベス
トの状態でなくともプレ
ーを許可することもあり
ます。チームや選手との
コミュニケーションを密
にしながら治療方針を考
えることが最も重要で
す。

秋田大学医学部整形外
科では、さまざまなアス
リートの診療を行って
います。私は主に、プロ
バスケボールチーム
の秋田ノーザンハピネッ
ツと、実業団チームの北
都銀行バドミントン部
のメデイカル
サポートを担
当していま
す。

アスリート診療

迅速、適切にサポート

国内最高峰
のBリーグ

に所属するハピネッ
ツの選手たちは過密な日程
の中、全国を移動しながら
強豪チームとの戦いを
強いられます。米プロバ
ス。

増しており、見る側は刺
激的な展開が楽しめる半
面、選手の心身には大き
な負担が掛かっています。
北都銀行バドミントン
部にも日本代表に選出
されている選手が複数
おり、多くの期間を県
外、海外で過ごすこと
になります。当然、けが
や疲労からくる慢性障
害によって、プレーが妨
げられることがあります。
トッパアスリートの診
療と、一般の患者さんの
診療とで大きく違う点
は、時間的制約です。医
師として全ての患者さん
に最良の医療を提供する
ことは当然ですが、彼ら
には次の試合、大会が控
えており、それが今後の

われわれは選手が離れ
た場所においても瞬時に
情報共有できるよう、タ
ブレットを用
いたサポート
ツールを開
発、活用して
おり、迅速かつ適切なサ
ポートを提供していま
す。秋田県のトッパアス
リートは才能にあふれ
ています。われわれも医
師としてのパフォーマンス
を最大限発揮し、秋田
のスポーツがさらに盛
り上がるように支援して
いきたいと考えていま
す。

（藤井昌・秋田大学
院整形外科講座）
△第1、3月曜日に掲
載▽



ドリブルで攻めるハピネッ
ツの保岡龍斗選手（右）＝1月
26日、新潟県のアオーレ長岡